

東北 VALUE SIGHT 秋田



ハバタク株式会社 代表取締役

丑田 俊輔（うしだ・しゅんすけ）

慶應大在学中、東京都千代田区の公共施設を起業家拠点として再生。卒業後、日本IBMにてグローバル戦略を担当。

2010年 ハバタク株式会社を創業。
海外留学や英語学習事業を展開。

2014年 ハバタク株式会社秋田オフィスを開設。
五城目町に移住し、廃校となった小学校を拠点に、茅葺古民家を活用したシェアビレッジなど田舎発の事業づくり、教育プログラムづくりを進めている。

ハバタク株式会社 秋田オフィス

秋田県南秋田郡五城目町馬場目字蓬内台117番地1

E-mail info@habataku.co.jp

ハバタク株式会社は、本社を東京都中央区におき、教育や人材育成、コンサルティングを行う企業である。2014年には五城目町に秋田オフィスを立ち上げ、代表の丑田氏自らが移住して、田舎発の事業づくりや、教育プログラムづくりなどに取り組んでいる。

グローバルな視点を持ち、未来を見据える丑田氏が、なぜ田舎に移り住み、地域課題解決に取り組むのか。そこには、地域に住まう人が持つ想像力や対応力、田舎のもつ可能性があった。

田舎から未来を創造する

アジアの草の根から学ぶ

アジアを旅している時に驚いたのは、地域に住む人たちの持つイマジネーションだ。目の前の暮らしを豊かにするために、課題をプレイフルに解決していくための小さな試行錯誤を繰り返していく。非電化の地域であれば、身のまわりにある土の配合と水の循環で冷蔵庫をつくってしまう。練炭の環境・人体影響が気になれば、エコな練炭を創作してしまう。決して先進国・大都市だけではなく、新興国・地域からも、世界を豊かにするアイデアは生まれているという事実だ。人類はそういった営みの中で歴史を紡いできたのだと実感させられる。

高度経済成長期を中心とした大きな社会システムの中で、雇用という言葉が定着し、都市がイノベーションの震源地となることで、仕事やお金の流れは、都市から地方にトリクルダウンしていく構造が定常化してきた。大きなシステムは安定成長期においては機能するが、暗黙のうちに乗っかっていくことによって想像力は枯渇し、外的要因が変化した時にもろい状態が露呈する。

3つの変化

21世紀に訪れた大きな外的要因として、「グローバル化」「テクノロジー」「豊かさの価値観の変化」が挙げられる。グローバル化は、地域から工場が海外に出て行くだけでなく、エンジニアはインドに、バックオフィスはフィリピンに、といった具合に「地球規模での経営資源の最適化」を可能とした。テクノロジーの進化は、人が介在し

ていた仕事を次第に自動化していく。いずれも世界をより豊かにしながらも、これまで正解の道、安泰といわれてきた生き方やキャリアは確かに崩れてきている。

一方で、若い世代を筆頭に、豊かさの価値観も変化してきている。所得の増大から、生き方の豊かさへ。無限の成長から、持続可能な創造へ。個々の競争から、多様性の中での共創へ。先進国・新興国問わず、インターネットやソーシャルメディアの力も相まって、価値観の変化は世界を駆け巡っている。

地球規模のスケールで社会課題が連鎖していく昨今。アジアの国々の成長のあり方も、先進国に追従していく流れとは違っていく可能性がある。実際、アジアのローカルからは、草の根発のイノベーターたちが同時多発的に生まれ、新しい時代を形づくっている。そして彼らは、成熟社会を迎えた日本がどのような未来を創造していくのかを、おしなべて気にしているのである。課題先進国・秋田は、こういった視点からも、世界に一つのあり方を魅せていくことができる可能性を持っていると思う。

田舎の可能性

都市と田舎を比べたときに、大まかな傾向として、次のような違いがある。田舎においては「貨幣経済はあくまで1ピースでしかない（依存度が高すぎない）」という位置づけの社会モデルであるという点である。経済には、生きるためのものをつくる「自給経済」、共同体で助け合う「贈与経済」、お金を媒介とした「貨幣経済」がある。都市化が進むにつれ

て、自給経済と贈与経済が縮小していき、貨幣経済が生き方の大部分を占めてくることによって生まれてくるひずみがある。学び方や働き方の変化を考える際にも、貨幣経済の中だけで解こうとしても、どうしても解きほぐせない。その時に、もう一段階俯瞰した視点で3つの経済をとらえることからこそ、未来が見えてくると感じている。

また、田舎では、自然やコミュニティといった概念が抽象的ではなく目の前に存在しており、里山の恵みで暮らしが成り立ち、地域内での助け合いを感じ、行政の取り組みには直に影響を受ける。世界がヒューマンスケールで、人間の想像力の射程で認識しやすい。世界の貧困問題を、と言われても多くの人にとっては身近なものになりきらないし、解決の糸口もつかみにくいが、自分たちが暮らす身近な「生きる世界」を起点に自分ごととして思考行動することで、より遠方へと想像力を膨らませていくことができると感じている。

草の根発の想像力

人口減少も貨幣資本の成長の停滞も、それ自体が致命的な問題ではなく、イマジネーションが枯渇した時にはじめて、物質的または精神的な「貧困」状態に陥ってしまう。

学校教育、仕事や雇用、住民と行政の関係性、都市と地方の関係性。これまで高度成長期型のOS（考え方のベース）の上に成り立ってきたシステムを、今一度見つめ直してみる。自分ごととして向き合い、学び直し、行動してみる。

例えば仕事。地域の中に積み重なってきた自然資本や文化資本、社会関係資本を価値の源泉に、新たな事業をつくっていくことはできないか。

例えば暮らし。個々人や行政がこれまで貨幣で消費していたものを、自給や贈与の視点で再構築していくことはできないか。

そういった内発的な想像力と試行錯誤を生み出し続けていきたい。

米国MITにはLifelong Kindergarten（生涯幼稚園）というラボがある。どんな国でも、子供達は夢中で遊びながら、共同でものを企画したり、作りだしたりする中で学び育っていく。生まれつき彼らには“Creative Confidence”（つくることへの自信）が備わっている。大人になるにつれて忘れていきがちなのこの姿を、われわれもしなやかに持ち続けることができたなら、その背中を見て育つ子供たちも、足元と100年先を見据えて共に地域の未来を担っていく力強い存在になると思う。



BABAME BASE【五城目町地域活性化支援センター】
ハバタク株式会社秋田オフィスが拠点を構える。